

宮城県教育委員会 (所在地: 仙台市青葉区本町三丁目8番1号)

事業名

学びを通じたみやぎの共生社会推進事業

事業の趣旨・目的

- ・障害の有無にかかわらず、誰もが安心して暮らせる地域社会を目指す。
- ・学校を卒業しても学び続けることができる持続可能で循環できる仕組みを形成する。

事業実施体制・連携先

コンソーシアムの構成員

大学、特別支援学校、特別支援学校PTA等連絡協議会、県社会福祉協議会、県障害者スポーツ協会、NPO、障害当事者支援団体、障害当事者、県公民館連絡協議会、再委託市町村、企業、行政（仙台市教育委員会、県障害福祉課、県消費生活・文化課、県教育庁特別支援教育課、県立自然の家）

事業内容

1 「地域コンソーシアムの形成」

- ①教育分野に限らず知事部局の保健福祉部や環境生活部、福祉事業所、NPO等が一堂に会し、情報共有や連携を図り、障害者の生涯学習を推進する方策を検討する。
- ②障害当事者1名を委員に加え、当事者の視点を議論に取り入れる。

2 「障害者の生涯学習プログラム実施主体に対する支援」

- ①アンケート調査の分析を基にした助言やアドバイザー派遣
- ②再委託先市町村等でのプログラム開発や実践の支援
- ③特別支援学校在籍生徒の学び支援

3 「障害者の学びを支援する人材の育成に資する研修の実施」

- ①行政職員・社会教育施設職員を対象とした研修会の実施
- ②各教育事務所管内市町村の社会教育主事を対象とした研修会の実施
- ③共生社会に関する県民向け講座の開催

4 「共生社会コンファレンスの実施」

- ①実践研究等により得られた成果や先進事例等の事例研究（実践発表、分科会等の研究討議）
- ②関係者間での出会いと対話の創出（参加者同士の対話、障害当事者との交流）
- ③普及啓発（展示発表、参加者同士のネットワーク形成、つながりづくり）

5 その他

- ①生涯学習課サイトを活用した情報提供 等

事業終了後の目指す方向性

- 1 障害者が自ら学びの情報を得て、自身の関心に応じて様々な学びを行う。
- 2 地域の実情、障害者のニーズに応じた障害の有無にかかわらず参加できる学習プログラムを自治体や社会教育施設が実施する。
- 3 自治体や社会教育施設等において、障害について理解を深め、障害の有無にかかわらず学べる環境を提供できる職員が増加する。

その他

「令和6年度 共に学び、
生きる共生社会 コンファ
レンスinみやぎ」

動画はこちらから→



生涯学習情報サイト

まなびの WEB 宮城

MANABINO MIYAGI



WEB



Facebook



YouTube